

2021年の備忘録

二〇二一年もあとわずか。さまざまな出来事が起こったが、膨大な情報の流れの中で、記憶はすぐに上書きされ、つい最近のことでも忘れてしまう。それゆえ、私なりの備忘録として、この一年を振り返りたい。

一月、アメリカ大統領選挙結果への抗議から、トランプ支持者が連邦議会議事堂に突入し、二月はミャンマーでクーデターが起こる。民主主義が揺れていることを感じさせる事件から、一年が始まった。

三月十一日は東日本大震災から十年の節目。震災当日、私は東京の虎ノ門で地震に遭遇した。周囲のビルがグネグネと曲がり、逃げ場がなかった記憶がよみがえる。四月、田中邦衛さん逝去。「青大将」より「北の国から」世代の私は、学生時代に富良野でロケ地巡りをしたことを思い出す。まだ「聖地巡礼」とは言わなかった時代である。

五月、愛知県・大村知事へのリコール運動をめぐる署名偽造問題で、署名活動団体の事務局長らが逮捕され、六月は森友学園の国有地売却をめぐる財務省決裁文書の改ざん経緯がまとめられた「赤木ファイル」が開示された。最近も国土交通省の統計で書き換え問題があったように、捏造・隠蔽がらみのニュースが後を絶たない。

七月は熱海で土石流災害が起こり、八月はオリンピック閉幕後すぐに、アフガニスタンでタリバンが全土を制圧したとのニュース。ガニ大統領があつという間に国外に退避したことが記憶に残る。九月十一日は米同時テロから二十年。アフガンの情勢を見るに、二十年にわたるアメリカの介入とはなんだったのか。

九月はフランスの俳優J・P・ベルモンドの死去も取り上げたい。「ルパン3世」のモデルと言われ、ひょうひょうとした独特の雰囲気忘れられない。十月最後の日は衆院選。十一月は将棋界で藤井聡太が史上最年少四冠を達成し、大谷翔平が米ア・リーグ最優秀選手(MVP)に選ばれるなど、明るい話題が続いた。

さて来年はどのような年になるのか。やはり希望するのは、コロナ感染症の収束である。

(静岡文化芸術大学教授)